

# 虹の松原で「除伐体験」を開催

～ 唐津南高校 唐津第五中学校など 総勢20名が除伐作業を体験 ～

12月18日、虹の松原(唐津市)において、クロマツが過密林となっている幼齢林箇所を対象に除伐体験を開催しました。このイベント開催にあたっては、NPO法人唐津環境防災推進機構KANNE(理事長 西脇俊彦氏)の協力をいただき参加の呼びかけをお願いしたところ、唐津南高校、唐津第五中学校など一般参加者も含め20名が参加し心地よい汗を流しました。

はじめに、白石佐賀森林管理署長から「虹の松原は、海岸防災林の役割と保健休養の場としての役割があります。本日、皆さんに行っていただく除伐作業は、クロマツの生長に重要な作業です。この活動を続けていくことは、永続的に虹の松原がその役割を果たしていくことに繋がります。」と挨拶を述べました。

つづいて、植薄地域林政調整官より、虹の松原が今日まで受け継がれてきた沿革などについて説明を行い、その後、山部森林整備官、志戸森林官、東技官により、除伐作業のデモンストレーションを実施し安全作業の呼びかけを行いました。

その後、参加者は3班に分かれて、手鋸を使って除伐作業を行いました。慣れない作業ということもあり、将来大きく育てる木の選木と周辺の伐採木を決めることが難しい様子でしたが、森林管理署職員のアドバイスを受けながら2時間程度でしたが除伐作業を体験しました。

今後、このような体験が、虹の松原の景観保全と後世に受け継いでいくためのボランティア活動に生かされることを期待するとともに、当局としても保全管理に取り組んでいきます。



白石 佐賀森林管理署長(中央) 挨拶



除伐作業体験の様子



除伐作業体験の様子